



# 市長 からの 手紙

## 51 縦割り組織

先日、日高市にある埼玉医科大学国際医療センターを見学する機会がありました。広大な敷地に素晴らしい造りの建物、最新鋭の医療機器の数々。どれも興味深いものでしたが、私が一番注目したのは、「大学病院の組織形態として一般的だった診療科目ごとの医局制をとらずに水平的な組織形態にした」ということです。

口頭での説明を聞いただけですが、私の理解した内容は次のとおりです。

一般的に大学病院は、診療科目ごとに、教授を頂点にその下に准教授・講師・助教・研修医(いずれも医師)といった縦割りの組織になっています。この組織形態では、例えば治療中の患者に自分の専門外の症状があり、他の診療科目の医師の意見を聞く必要が生じた場合に、決められた手続きに従って問い合わせなければなりません。同じ病院にいるのに、手続きに時間がかかってしまうため、患者への迅速な対応が難

しいという弊害があったそうです。

そこで、すべての医師が横並びであるような水平的な組織形態にし、かつ、医師が個室を持たずに、いろいろな診療科目の医師も看護師も1つの大きな部屋に机を置くようにしたとのことでした。そして、患者ごとにチームを組み、治療のための情報共有や打ち合わせを行い、他科の助けが必要なときは、同じ部屋なので、すぐに他科の医師等に対して、治療方法の相談をしたり意見を聞いたりできるような組織である、という説明でした。

行政の組織について振り返ってみると、縦割りの弊害が、昔から繰り返し指摘されているところ。一向に変わらないではないかという批判を、常々行政は受けています。

行政の中に入ってみると、地方自治体の行政組織が縦割りになっているのは、地方自治体が、国の法律を具体的に執行する最前線組織という役割を持ってつくられたことに由来していることがよく分かります。

縦割り組織そのものは、一つの自治体の力を変えることは難しいですが、その弊害を少しでも減らす工夫はしなければなりません。同センターの新しい組織形態について学んだことが行政に生かせるのかどうか、思案しているところです。

川越市長 川合善明

環境にやさしい行動を目指して 5  
屋上や駐車場の緑化で、まちを涼しく

環境政策課 224-5866

近年、地球温暖化やヒートアイランド現象が大きな環境問題となっています。緑を増やすことは、有効な対策の一つです。しかし、都市部では緑を増やすことができる場所が限られてしまいます。



屋上に設置された芝生

そこで、効果的な手段が建物や駐車場の緑化です。昨年、会社の屋根に芝生を設置した、(有)金大では、緑化した屋根を見た方に、「きれいな

なったね」と声を掛けられるそうです。同社の原紀明(はらのりあき)さんは、「屋上を緑化したことで、建物内の暑さが和らいで、外出から帰ってきたとき、以前のように暑くありません。冬も部屋の温度が保たれて、ファンヒーターの使用が2台から1台になりました。冷暖房費が減って、エコを実感しています。水分を保つ資材を使

って設置したので、水やりの必要もなく維持にそれほど手間はかかりません。今年も駐車場にも芝を植えて緑化したところ、1階の倉庫が涼しくなりました」と話してくれました。



今年から駐車場も緑化

市では、今年度から「川越市みどりの補助金」として、従来の生け垣の設置、屋上緑化、壁面緑化への補助に加え、駐車場緑化に補助を行っています。環境にもやさしく、緑が生活に潤いを与えてくれる緑化を、自宅や会社で実施してみませんか。詳しくは、環境政策課までお尋ねください。